

第21回愛知県精神障害者スポーツ(バレーボール)大会競技規則

第1条 本規則に定める以外は、2024年度 公益財団法人日本バレーボール協会制定6人制競技規則によるものとする。

第2条 施設と用具

1. コートは、18m×9mの長方形とする。
2. ネットの高さは、2m24cmとする。
3. ボールは公益財団法人日本バレーボール協会制定のソフトバレーボール球・糸巻きタイプ(円周78±1cm、重量210±10g モルテン制)を使用する。

第3条 競技参加者

1. 試合は6人制の男女混合チームで行い、常に女性が1名以上出場していなければならない。
2. チームは監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とする。

第4条 競技方法

1. 試合はリーグ戦又はトーナメント戦で行う。
2. 全試合3セットマッチとする。
3. 1セット25点のラリーポイント制とし、2セット先取したチームを勝ちとする。
なお、得点が24対24の同点となった場合は、それ以降に2点リードしたチームがそのセットの勝ちとする。
優勝戦は、いずれかのチームが13点先取した時点でコート交代を行う。
4. 試合は、ワンボールシステムで行う。
5. チームには、1セットに2回のタイムアウト(1回30秒間)と6回の競技者交代が認められる。(監督もしくはゲームキャプテンのみが要求できる)
6. スターティングラインナップの競技者は、交代によりコートを離れても1セットにつき1度だけ元のポジションに戻るることができる。
7. 例外的な交代として、負傷した競技者の代わりにコート上にいない競技者と交代ができる。ただし、交代後も女性選手が1名以上出場していなければならない、不可能な場合にはその時点でゲーム終了・没収試合とする。
8. サービスの実行
 - ・主審がサービス許可の吹笛後8秒以内にボールを打たなければならない。
 - ・サーバーは、エンドラインの後方、かつサイドラインの延長線上の内側で打たなければならない。またその際エンドラインを踏んではならない。
 - ・サービスは、ボールがトスされたか、手から離された後、片方の手または腕で打つ。(片方の手のひらに置いたままのボールを、もう片方の手で打つことはできない)
 - ・サービスを直接アタックもしくはブロックして相手コートに返すことはできない。
10. タッチネットについて
 - ・ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネット、ネットへの接触は反則である
 - ・ボールをプレーする動作の中には、(主に)踏み切りからヒット(またはプレーの試み)着地までが含まれる。
11. センターラインの踏み越しについて
 - ・ラリー中片足又は両足が完全にセンターラインを越えて相手のコートに侵入した場合は反則となる。

第5条 服装

1. 運動のしやすい服装で出場する。
2. 素足での参加は認めない。体育館シューズを持参すること。
3. ユニホームには番号をつけなければならない。もし、番号がなければビブスを着用すること。(主催者でビブスは準備します)

第6条 監督・コーチ・キャプテン

1. 競技中断時、ゲームキャプテン及び監督だけが審判に対して質問することができる。
2. 監督はベンチの記録席に最も近い位置に座る。ただし、試合を妨害または遅延しない限り一時的にベンチを離れてもよく、アタックライン延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーンの範囲内では立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。

その他

1. 競技の参加チーム数、試合の進行状況、その他の理由により、試合形式、進行方法等に変更がある場合がある。
2. 交流試合の実施方法等については、監督者会議で協議する。
3. 平成30年度全国障害者スポーツ大会競技規則(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会制定) 試合球は、日本ソフトバレーボール連盟公認球・糸巻きタイプ(モルテン制・円周78cm±1cm、重量210g±10g)とし、主催者で用意する。